

仙
北
市

市議会 だより

平成23年8月1日 No.23

主な内容

仙北市議会 6月定例会	2 ~ 3
第3回・第5回 仙北市議会臨時会	4
一般質問	5 ~ 9
常任委員会	10 ~ 12
全員協議会	13
人事案件・傍聴席・控室	14

6月定例会

チャレンジデー大使として訪れた長崎 宏子さん

第4回 仙北市議会 6月定例会

平成23年度
仙北市一般会計補正予算
8,681万円を
採決の結果13対7で可決する。

東日本大震災後、観光客が激減

観光・物産への影響は極めて甚大であり、自助努力でどうにかするという限度を超えている。

市内の事業者が二次被害を受けている中で義援金のあり方について本会議で論議が集中する。

6月定例会の主なもの

◎東日本大震災の支援活動

5月6日現在、宮城県女川町から108人の方々を田沢湖高原のホテル等で受け入れている。

6月7日現在で避難者の受け入れ状況は、福島県48人、宮城県173人、岩手県11人の計232人となっている。

◎観光客の入込み状況

東日本大震災の影響を受けて、入出は大きく減少している。

角館の桜まつりは昨年より88万6000人少ない68万4000人。

刺巻湿原ミズバシヨウまつりは昨年より9万1000人少ない4万6,900人。

西木のかたくり群生地は昨年より7,918人少ない1万724人の人出となりいずれも大幅な落ち込みになっている。

◎秋田内陸線

平成22年度決算

平成22年度の赤字は2億5,752万円、乗車人員は平成元年の全線開通以来最低の記録となる。

平成24年度までに2億円以内に圧縮できない場合は存廃を含め見直しを図ることで合意している。

◎プレミアム付商品券

発行事業は商工会と連携した1億円に10%のプレミアムを付けて6月8日より発売を開始している。

市民は20万円まで市民以外は10万円まで購入できるが、発売後約1週間で完売している。

◎医療局

4月1日付けで宮川信医師が仙北市病院事業管理者として着任している。

現在医療局では2つの市立病院の業務形態を見直し『給与事務と出納事務の統合』を図り資金効率の改善を進めている。

又、委託業務の見直しを行うと共に『薬品購入や診療材料』等の価格交渉も行っている。

◎秋田内陸線

なお、角館病院の建設事業については建設用地選定委員会による本格的な議論に入っている。

◎市立角館総合病院の平成22年度決算状況は、

906万円の赤字

累積欠損金は約14億円

赤字額は前年度より

1億2,395万円減、

主な要因は、外来収益の増加、国の交付金が増え、

のびた事、職員給与費及び材料費の減少によるものである。

◎市立田沢湖病院の平成22年度決算状況は、

8,795万円の赤字

累積欠損金は

約7億3,800万円

主な要因は光熱水費、燃料費の増加と給与費の増加によるものである。

一一般会計補正予算

歳出の主なもの

◎第3セクター経営改革推進費。花葉館、西宮家、クリオン、アロマの市が50%以上出資している4社の今後の方向性をコンサルティングへ委託。

210万円

◎東日本大震災へ義援金。角館桜並木駐車場の売上1,294万円の40%を宮古市、山田町、大槌町、高萩市、常陸太田市へ各103万円。517万円

◎大震災復旧支援資金。融資申込みが113件、想定した融資額を16億円から20億円に増額した利子補給額(0.5%)。

225万円

◎神代保育園暖房修繕費。

433万円

◎地域支え合い体制づくり事業。高齢者を見守り支え合う、NPO10事業者(見守りネットワーク、AED、スロープ設置他)。

1,087万円

◎医師確保のための奨学資金(2名分)。

480万円

◎環境教育プログラム作成費。自然環境やエコエネルギー資源の調査作成(緊急雇用2名)。

784万円

◎グリーンツーリズム推進事業。実体験をして意見を聞くモニター。

145万円

◎教育サポーター事業。地元小中学生の宿泊体験活動に支援する(一泊2,000円補助)。

120万円

◎田沢湖遊覧船桟橋整備事業。県事業であり市負担20%。

1,188万円

仙北市議会では、市民に開かれた議会の一環として、各議案に対して議員の賛否を議会だよりに掲載することにする。

6月28日、議会最終日
東日本大震災義援金に対して反対、賛成討論続出

高久・高橋議員

(反対討論)

角館の桜まつり期間中の駐車場収入の40% (517万円) を義援金とする予算は議会に諮る前に決定しており事前執行ではないか。仙北市は震災後景気が低迷しており、義援金ではなく地元で図書券を購入し、小学生を対象に送ることを提案する。

仙北市の厳しい経済状況の中で支援する側が倒れてしまつては長期的継続的な支援は不可能になる。現金を送ることは身の丈に合っていないし、市内の経済を活性化に繋げる支援方法を検討すべきである。

田口(寿)・阿部議員
(賛成討論)

義援金を送ることは賛成する。今後一日も早く二次被害の対応策を講ずることと、仙北市を活かした復興支援の検討をすべきである。

市長は義援金を送る一連の経過について裁量権を逸脱するものではない。時間の余裕がない中での判断はやむを得ないものであり賛成である。
採決の結果、賛成13名 反対7名で可決する。

なお、会派の賛否は

反対会派
新星会、日本共産党仙北市議団
賛成会派
仁政クラブ、民政会議、翠鸞会

の以上である。

(田口(喜) 記)

平成23年 第4回 仙北市議会定例会 (招集日：6/9 最終日：6/28) 議決結果・議員表決 (議長除く) 凡例 ○：賛成 ×：反対 欠：欠席

議案番号	件名	議決月日	高橋 豪	熊谷 一夫	門脇 民夫	平岡 裕子	狐崎 捷琅	田口 寿宜	阿部則比古	佐藤 直樹	黒沢 龍己	小田嶋 忠	荒木田俊一	安藤 武	小林 幸悦	伊藤 邦彦	青柳宗五郎	八柳良太郎	田口 喜義	藤原 助一	高久 昭二	稲田 修	佐々木 章	
議案第69号	仙北市市民読書条例制定について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第70号	仙北市市税条例の一部を改正する条例制定について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第71号	仙北市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第72号	仙北市農村公園及び広場条例の一部を改正する条例制定について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第73号	仙北市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第74号	平成23年度仙北市集落排水事業特別会計への繰入れ額の変更について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第75号	平成23年度仙北市一般会計補正予算(第3号)	6/28	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	欠	×	×	×
議案第76号	平成23年度仙北市集落排水事業特別会計補正予算(第1号)	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第77号	平成23年度仙北市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第78号	平成23年度仙北市生保内財産区特別会計補正予算(第1号)	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第79号	平成23年度仙北市病院事業会計補正予算(第1号)	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第80号	平成23年度仙北市水道事業会計補正予算(第1号)	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第81号	平成23年度仙北市ごみ処理施設大規模改修工事請負契約の締結について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第82号	辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
諮問第2号	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて	6/9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願第2号	「大曲養護学校児童生徒の放課後生活支援サービス等」及び「大曲養護学校仙北分教室開設までの暫定分教室設置」を求める請願書	6/9	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H22年請願第1号	請願書(雲然地区の水害予防措置について)	6/28	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

平成23年4月27日

第3回 仙北市議会臨時会

東日本大震災発生 仙北市経済に大ダメージ!!

東日本大震災による経済被害対策 補正予算の概要

◎仙北市中小企業災害復旧資金利子補給 775万円

(秋田県中小企業振興資金の融資利率1.5%の内0.5%を利子補給)

◎がんばろう東北仙北市民元気創出事業費 880万円 (市内温泉入浴券発行)

4/15専決処分 234万円 (宿泊クーポン券発行)

◎がんばろう東北プレミアム付き商品券発行事業費補助金 1,015万円

(地域商品券発行に対する10%のプレミアム分)

審議の結果、これら全ての議案は承認・可決された。主な内容は次の通りである。

22年度地方交付税が確定 (3/31日専決)

地方交付税確定のため財政調整基金へ2億7,000万円を積立。基金の総額見込みは24億9,000万円。

国民健康保険条例の一部を改正 (3/31日専決)

地方税法施行令の一部改正に伴う賦課限度額の引き上げ。上限が合計4万円引き上げられる。議員からは、こうした重要案件は専決処分ではなく議会で諮るべきではないかとの指摘があったが、当局は、日切れ法案のためやむを得ないとの見解を示した。

震災経済対策 宿泊クーポン券発行 (4/15専決)

東日本大震災による観光客の激減に伴う経済対策。抽選で1,000名様、2,000円の宿泊券が当たる。外れた方も

500円の宿泊施設利用券がもれなくもらえらるという企画。議員数人からは、「内容については十分に理解できないが、この予算を専決処分した4月15日には全員協議会が開催されていく。専決ではなく、その日に臨時議会を開催して議会で諮るべきではなかったか」という趣旨の質問が相次いだ。当局は、「緊急性を伴うものでタイムリーに予算化したかった」と答えた。

補正予算 震災対策関連に5,798万円可決

被災した岩手県山田町に連絡所を設置。物資の提供や情報収集、避難者受入等を行う費用754万円。原発事故等により農産物の産地移動が予測されるため、園芸団地育成に向けた支援として1,310万円。

震災後の経済対策として、地域商品券発行

に対して、中小企業災害復旧資金の利子補給、温泉入浴券発行などに合計3,010万円。

平成23年7月13日

第5回 仙北市議会臨時会

6月23日・24日の豪雨 市内各所で被害発生

仙北市の被害状況 (7月8日現在)

床上浸水 3件 床下浸水 21件 非住家浸水 32棟
河川護岸決壊等 19か所 道路法面崩落等 19か所
農作物被害 108.24ha 水路・頭首工等損壊 132か所

豪雨災害関連の補正予算の概要

農業用施設災害復旧 452万円 (専決処分含む)
林道施設災害復旧 1,491万円 (専決処分含む)
公共土木施設災害復旧 2,274万円 (専決処分含む)



6月23日、24日の豪雨により河川氾濫 (角館町下川原)

去る6月23日深夜から24日未明にかけて仙北市内を豪雨が襲った。昨年夏も集中豪雨で多くの被害を受けた本市であるが、今回もまた河川の増水・氾濫により床上・床下浸水、農地被害、道路損壊などの被害が市内全域に及んだ。近年の雨の降り方を考慮すれば、被害個所の現状復旧とともに、根本的な水害対策を行っていくことが急務である。また、今回の河川の急激な増水はダムの放流が大きく影響していることが伺われ、今後ダム管理者との密接な折衝が求められる。臨時議会においては、豪雨災害関連の補正予算と、震災後の経済対策関連補正予算が審議され、いずれも全会一致で可決した。主な内容は次のとおり。

豪雨災害関連の補正予算

河川・道路・農地等の損壊箇所復旧費用として、4,218万円。(専決分も含む)

震災経済対策関連の補正予算

地域商品券追加発行のプレミアム分、観光連盟との連携事業として宿泊クーポン券や広告宣伝費用など合計2,323万円。

一般質問



○東日本大震災に学ぶことは何か
○市庁舎のあり方についての
提言書について

仁政クラス 佐藤 直樹 議員

東日本大震災に学ぶことは何か

質問 3月11日の大震災後、毎日のように余震や県内陸南部を震源とする地震が発生している。

仙北市が震源地の大地震が発生した場合、玉川ダムをはじめとする4つの大きなダム湖や、小滝ダムのような小規模なダム湖、用水、ため池、貯水湖等の決壊が非常に心配である。実際に、福島県須賀川市長沼地区にある農業用ため池として作られた藤沼湖が、今回の大震災の折に決壊し、周辺集落に大きな被害をもたらした。

今回の大震災では、想定外という言葉が使われているが、想定外の事が起こるのが大震災だという認識を常に持つべきである。人命第一、市民・住民の命を守るという観点から、想定される被害、対応策について伺う。

答弁 地震被害想定における被害の想定項目は、地盤、建物、人的被害、道路・鉄道等の交通



6月21日の地震で崩落した田んぼの畦畔(角館町白岩)

網、ダム・貯水池、電力、通信、上下水道等のライフラインが挙げられる。

この中でも、仙北市として特徴的な施設に玉川ダム、鎧畑ダム、夏瀬ダム、神代ダムの4カ所のダム湖が心配される。ダムの地震時の安全性については、河川管理施設等構造令施行規則により、4つのダムは重力式コンクリート式で、地震計数は0.12以上の値で構造計算をされている。万が一、ダム堤体に異状が見えられた時は適時放流するの

で、一度に決壊し一気に水が流れて来る状況はないと聞いている。しかし、万が一に備え仙北市地域防災計画にある避難場所が適切か否か、再度検討が必要と考えている。

また小滝ダムについては、関係機関と現状の把握から始めたい。

質問 仙北市でも地震防災マップを作成し配布されたが、被害想定のかとらわれず、あらゆる状況をシミュレーションした中で、市民・住民

への周知が必要である。活断層の表記も含め地震防災マップの見直しを図るべきと考えるがどうか。

答弁 今後、被害想定という枠を取り払い、これまで作成した資料を改めて分析し、活断層の表記も含め検討を加えながら、震災での教訓、情報等を共有する、随時安全対策に取り組みることができるような避難所の見直しも同時に行いたい。

市庁舎のあり方についての提言書について

質問 みんなの庁舎検討委員から市庁舎のあり方についての提言書が3月に提出された。それを受けての市長の考え方がなかなか伝わって来ない。

合併特例債の使用期限がある中で、先に病院建設という市長の考えがあり、庁舎建設はやらないのかと聞いている市民もいる。市庁舎建設について、市長の率直な考えを伺う。

答弁 分庁舎方式の市役所業務の非効率性の解消は早期に必要と考え、一体型庁舎の必要性は強く認識をしている。

地震が度々発生している状況下で、各庁舎の老朽化を大変心配している。市民の命を守るという観点から、市立角館総合病院の改築が優先されるべきという考え方で作業を進めており、庁舎建設とできるだけ時期が重ならないようにする事が適策であると考える。しかし、庁舎建設に大変有利な財源である合併特例債の発効可能期限も十二分に考慮する必要があると認識をしている。

場合によっては、病院建設と庁舎建設の年度が重なる事もあり得るものと思う。市の将来にかかわる大変重要な案件である。市民会議から頂いた提言、行政改革の取り組み、財政事情の推移とあわせ、庁内会議での検討を踏まえた後、更に市民、議会と重層的な協議を重ねて行きたいと考える。

(田口(寿) 記)

一般質問



○市名の変更について

新 星 会 佐々木 章 議員

市名の変更について

質問

本市においては観光ブランド戦略の一環として「田沢湖・角館ブランドロゴマーク」を作成するなどし、対外的に発信している。こうしたブランド戦略については市議会でもこれまで議論を重ねているが、ロゴマークに留まらず一歩踏み込んだ市名の変更について

ついでに命題も提起されている。2月定例会後、このことについて、市政懇談会等市民との対話の中で、どのような形で対応しているのか。また、逆に市民の声はどうか。

答弁

東日本大震災が発生したため、各定例会後に開催している「まちづくり懇談会」については、今回延期した。しかし、日常的な様々な場



市名変更による究極の地域ブランド戦略
(田沢湖・角館ブランドロゴマーク)

面において、よりたくさんの方々に対し、この件について積極的に問いかけを行っている。その際の反応としては、大変戸惑われた表情を示す方と、乗り出して話に参加する方と、半々ぐらいではないかと感じている。まだまだ市民はこの議論の外にいるような距離感を覚えるため、まずはこの距離感を埋めることで議論を高めていく必要があると思う。また、ロゴマークについては現在各分野に浸透しつつあるが、このことが市名変更につながって行くといった急な判断は避けたい。時間が必要と感じている。

質問

「仙北市」では、対外的なインパクトに欠け、全国的な認知度は今一つと感じている。市長自身が、全国各地へ訪問した際に受ける感触についてはどうか。

答弁

仙北市という市名の認知度というのは、かなり低いと受け止めている。仙台など、同じ東北の中ですら、仙北市という仙台の北でし

質問

合併当初の理念で「観光産業を生かした北東北の交流拠点都市」の実現のために、これまでとは違った切り口が必要と考える。観光客数もここ数年で激減しており、観光のみならず、この地域のあらゆる産業が今後成り立って行けるのか問われている。そうしたことからしても市名変更の必要性を感じるいかがか。

答弁

観光産業は確かに仙北市の主要産業である。しかし、例えば旅

館・ホテル、旅行業、お土産店、そういう方々だけがこの産業に携わっているのではないという認識をきちんと確認しなければいけないと考える。農業、林業、水産業、工業などに携わる多くの市民においても、お客様をお迎えし、おもてなしを高め、喜んでいただくことに大きく貢献をしている。従って、自分も仙北市の観光産業の一翼を担っている市民だと思いを市民の方々に広げ持っていたかなければ、仮に市名を変更したとしても、大きく発展するというイメージは持ちにくい。田沢湖・角館のブランドをより強力に発信するが、市名変更の前に、市民の方々が観光に携わる一員であるという啓発活動の盛り上がり期待をしたい。田沢湖や角館といった名前に恥じないまちづくりを進め、内実を充実させるために、観光ブランドの設立とそのPRを一つの手法として行っていきたい。

(高橋 記)

一般質問



○市内宿泊業者の救済を
○庁舎の建設を急げ

民政会議 阿部 則比古 議員

市内宿泊業の窮状を憂う。

質問 東電福島第一原発の重大事故の影響によって市内の観光業者、取り分け田沢高原の宿泊業者がこれまで、大手旅行代理店への依存度が高かった分だけ深刻な状況にある。こうした旅行代理店は、自社ツアー客が福島を通過することに、各社とも強い難色を示している様だ。市としてこうした業者に、例えば市内の宿泊施設の利用にプレミアムを付けるとか、様々な営業をするべきだと思うが。

答弁 これまで本市では2千円のクーポン券5百組、更に第2弾も実



かつてのようにぎわいが待たれる宿泊施設



震災の影響により閑散としている武家屋敷通り

施しており、第3弾については2人以上のファミリー券5千円、5百組を予算上程しており、ご審議願いたい。更に新しく発足する観光連盟の要請では、首都圏の地元出身者に、ダイレクトメールで直接情報を発信し、お盆の帰省等の折に、市内宿泊施設や地元商店の利用をお願いする事業を行いたいとのことであり、地域経済力の再生に資する公共性の高いと判断できる場合は、市として最大限の支援を惜しまない。ご指摘のエンジン対応については、日本旅行業協会主催という形で関東、関西主要エージェント14社の商品企画担当者を招き、男鹿・角

館・田沢湖地区の実情を視察頂き意見交換をした結果、「県から提案された、大都市圏及び東北地方から、県内での宿泊を行う旅行商品の造成及び販売に対し、旅行会社の送客実績に応じての、助成制度や団体バスツアーの、バス代などの支援策が示されており」エンジンとの皆様から強い好印象を持って頂けたと考えている。また7月2日には同協会東京支部副組合長の、太田幹事長の取り計らいで、本市の旅行商品開発のため、事前視察の形で、都内主要エージェント20社前後の皆様を現地にお連れいたいただく事になった。今後PRしながら、県と協力し、本

市への集客を図っていきたい。

断じて、本庁舎建設なくして本市の行財政改革なし。

質問 現在、本市の行財政改革を阻害している、最大の要因は分庁舎方式にある。合併による悪しき妥協の産物であり、本来、市立角館病院の改築より、重要性からしてずっと上位にあるが、同病院の躯体、特に屋上フラップに、大きな強度不安があり、やむなく私も病院建設を優先させるべく、これまで議論をしてきたが、平成27年度内に庁舎を完成させなければ合併特例債が打ち切られ、恐らくその後の建設は不可能になる。財源が無い以上、現在年間70億円前後の、支払いのある人件費から5パーセント程度、つまり年間3億5千万円程度を、庁舎建設の財源に充てられれば、5年程度で、病院、庁舎建設による財源のダメージから離脱出来ると思うが、危機ラインから脱したら、元に復すと

うことで、職員の皆さんにお願いして、建設費に当てられないか。

答弁 おっしゃる通り、この機を捕らえなければ、優良な財源を確保出来ないと思われる。市民サポーターセンターのあり方や、職員の配置とか課題が多いが、皆の庁舎検討委員会の提言もあり、ワーキンググループの報告書をもとに、既に検討作業の準備に入っている状況にある。作業を早めて、議員の皆様には、12月議会を目的に、今後の作業スケジュールをお示ししたい。職員の給与の削減については、民間給与に基づく、人事院勧告をもとに決定されている事を考慮すると、現時点では削減は難しいと考える。しかし病院や庁舎建設のような、大規模な事業に伴って、やむを得ないと判断された場合は、ご指摘の様に、職員組合の方々の協議を行い、理解を得ながら検討を進めて行くべきと考える。

(門脇 記)

一般質問



- 農政について
- 教育行政について

議員 荒木田 俊一 会 長

農政について

質問 市内の農地は、平野部は整備されてきているが山間部に入れば耕作されていない農地が見受けられる。

現状で耕作を維持していくには大変な状況であると思う。特に用排水路や農道が未整備のため間接管理に労務費がかさみ、生産コストに大きな負担がのしかかっている。

当市の整備事業は黒倉地区営圃場整備以後、新規に取り組まれた場所はないと認識しているが、まだまだ整備が必要であると考える。

今までは大規模な整備が行われてきたが、これからは地域に合わせた整備をきめ細かに進めていく必要があると考える。今後整備が必要な農地がどれくらいあるのか。

また、市はこれらの解消に向け、どのような取り組み、あるいは改善策を講じてきたのか。

答弁 仙北市の未整備面積は2,680haで、今後の要整備面積は1,364ha、整備率は

現在66.3%となっている。

整備事業計画の予定箇所は、岡崎地区、東田地区、生保内南地区を計画に上げている。

新規地区選定会議等の審議を経て決定されるが、新規採択地区の審査は厳しく評価が低い地区は不採択もあることから、明確な営農ビジョンの元に圃場整備計画を策定することが重要になっている。

圃場整備事業に意欲のある地域については、市も一緒になってできる限りの支援をしていく。



基盤整備が待たれる中山間地の水田

教育行政について

小・中学校の統合は

質問 仙北市の人口は10年間で4,000人も減少し、それと比例して児童生徒も減少している。小・中学校の設置は今後10年程度、今の体制で維持できるのか。

学校は教育の場ばかりでなく、地域の避難場所や、地域のよりどころとして多面的な役割も求められている。

統合を考えた場合、一つの目安となるのは複式学級の発生が判断の分岐点になるかと思うが、教育委員会の考えは。

答弁 平成29年まで児童数の推移では最も少ないときに中川小学校が41名、松木内小学校が55名、白岩小学校が77名となっている。

本年度、中川小と白岩小で複式が発生する状況であったが、県から複式解消の講師が派遣されている。地域から統合等によ

り学校を無くさないような方向でいきたいというのが教育委員会の現時点での見解である。

市民会館の

機能・役割は

質問 市民会館が建設されてから30年以上にきていますがこれまで果たしてきた役割は大きなものがあつたと思う。

しかしながら、ここ数年の状況や設備の補修状況を見れば、この施設を積極的に活用していく気があるのか疑問に思う。また、自主事業も少なく、市民会館が条例にある機能・役割を本当に果たしているのか。

答弁 市民会館では講演会、各大会等の利用回数は少ないながらも、近年では定期的に吹奏楽団やコーラスグループの練習場としても活用されている。自主事業では自衛隊コンサートや生保内節全国大会などを予定している。

今後は市内の小・中学校や高校、芸術文化団体に呼びかけ、利用頻度を

多くし、自主活動も活性化するように工夫していく。

カヌーコースの整備は

質問 日本カヌー連盟が検討してきたスラムコースの整備候補地に玉川を推薦したと聞いている。

これが実現すればナショナルチームの合宿やオリンピック選手の練習拠点として活用されるものと思う。

また、全日本の選手や23歳以下の強化選手のメンバーには秋田県からも入っている。これが実現可能であれば、市はどのような協力をしていくのか。

答弁 コースの設定は、各種障害物を配慮した延長200mの計画である。

今後の整備計画では河川占有手続きが終了次第、工事に着手する予定と聞いている。市としては各関係機関とのパイプ役として早期完成のため協力していく。

(小林 記)

一般質問



- 本市の防災対策について
- 「緊急時あんしんボタン」配布事業について
- 節電対策について
- ドクターヘリへの対応について

熊谷 一夫 議員

本市の防災対策について

この度の3月11日の東日本大震災は、マグニチュード9.0という未曾有の大震災であり、その上、原発問題も重なり3カ月を過ぎた現在もその傷跡が大きくその復旧には数多くの困難が残っている状態である。

このことに関連し、本市の防災対策について質問したい。

質問 仙北市地域防災計画ではマグニチュード7.2を被害想定値として全ての対策を講じているが今後、防災、震災対策の見直しを行わないか。

答弁 防災計画の見直しについては仙北市地域防災計画を作成し、災害時の初動動員等について現在、関係部局と協議、調整を進めている。県で防災計画改定の見直しが行なわれるということなのでその動向と連動をしていきたい。医療体制については市内の医療機関に災害協力医療機関として役割をお願いする

ことになっている。災害時の速やかな情報伝達、避難指示の迅速な対応が取れるかについてお伺いしたい。

答弁 情報伝達については有事に備えた情報伝達システムの確立を目指して未整備地区への防災行政無線を年次計画で進めることにしている。また、通信事業者と緊急報エリアメールサービス契約を締結し、情報の伝達等を行なっている。

質問 避難指示等の迅速な対応については、日頃から避難経路を点検し迅速な指示ができるよう消防機関、警察等と協議し研究している。

質問 被災者支援システムの導入運用についてお伺いする。

答弁 全国的に自然災害心安全に対する住民の関心が高まっている。もし大規模な自然災害に見舞われたときには直ちに災害者を援護、支援し、迅速かつ的確に業務を実施する必要がある。ご指摘の件は危機管理対応とし

て必要である。関係機関と協議し調査研究を進めていきたい。

質問 昨年9月の一般質問の折にも提案したが、防災の日を制定し、防災教育・訓練を実施し、防災意識の向上と災害被害縮小を目指して再度市長の考えをお伺いする。

答弁 仙北市防災の日に案を頂き、これまで検討をしてきた。悲惨な災害を風化させることなく、市民の高揚に資するなど効果が期待できる。地域運営体が主体的に防災意識の高揚や活動訓練を行なっていただくことを期待し、防災の日制定について今後の課題として継続して考えていきたい。

質問 「緊急時あんしんボタン」配布事業について

質問 緊急時安心バトンの配布を導入する考えがないかについてお伺いする。これは、緊急時に役立つボタンで、ボタンの中に緊急の連絡先やかかりつけの病院、緊急情報用紙、保険証のコピー

などを収納してステッカーを貼った冷蔵庫に保管するというもので現在、注目されているグッズである。

答弁 県のボタンを緊急医療情報キットと呼んでいるが、このキット配布の事業費を仙北市では23年度予算5款労働費の中に計上している。これは、ボタンと全く同じ趣旨のものである。

ドクターヘリへの対応について

質問 ドクターヘリへの対応についてお伺いする。

答弁 当市ではドクターヘリの対応やヘリポートの整備、または消防本部との連携など進捗状況についてお伺いしたい。

質問 原発事故の影響で電力使用制限が15%となるが、本市の節電対策と今後の課題について伺う。

答弁 市民の皆様へ周知を図っている。公共施設は、消費電力20%以上を削減目標に、夏場の電力だけでなく節電に努めていきたい。

質問 緊急時安心バトン配布事業について

質問 緊急時安心バトン配布を導入する考えがないかについてお伺いする。これは、緊急時に役立つボタンで、ボタンの中に緊急の連絡先やかかりつけの病院、緊急情報用紙、保険証のコピー



高齢者の命を守る緊急時安心ボタン

総務 常任委員会

本会議より総務常任委員会に付託された案件は、条例関係2件、補正予算2件、その他1件の計5件である。

■仙北市民読書条例制定について

問 有意義な取り組みだと思いが、司書・教諭の配置はどうなっているか。以前、角館町では本の移動文庫があったが本の移動は可能か。

答 司書は基本的には12学級以上の学校に配置される事になっており、その基準に達しているのは角館小、生保内小、角館中の3校である。ただし、司書は市内の小中学校に全て配置され、各小中学校と図書館を合わせた図書検索システムを作成中である。また、出来

れば一般の方が図書館以外の場所、学校やその他のところで本を読めるようにしていきたい。

●賛成討論

図書館に足を運べない方や多様な市民のニーズに応える事ができるよう、小中学校のネットワークを活用しながら、図書の流通システムを構築する事。有名無実とならないよう、より多くの市民から図書館に馴染んで頂けるような仕組みを工夫されるよう要望し賛成する。

■仙北市一般会計補正予算

本案では、桜まつり期間中の駐車場料金の40%を、仙北市とつながりのある5つの被災自治体へ義援金として送る「東日本大震災義援金」について質疑が集中した。

問 義援金はいつ提案されたのか。また、チラシはいつ作ったのか。

答 4月6日の実行委員会です。駐車料金中いくらかを義援金に出したら良いのか話し合われる中で500円なら200円が

妥当だと話し合わせ、市長との打合せの後チラシ等に印刷されると決まった事である。

問 駐車場料金の一部を義援金として支出する

いう、正式な議決以前に桜まつりのチラシに義援金の旨を記載した事は、議決を得ない事前執行ではないのか。

答 未曾有の大震災への義援金としての性質上、一刻も早く渡したい事から、出来れば専決処分をお願いしたかった。

その後の被災地支援の取り組みについては、議会に情報をしっかりと提供して来たつもりである。最初の取り組みの時点で、十分に理解を得る為の努力が足りなかった事についてはお詫び申し上げる。

実行委員会から義援金をというお話を頂いてからの市の進め方が良くなかったと理解しており、今後このような事がないようにしたい。

委員長から市長に対し、今後二度と事前執行ととられかねないやり方

問 義援金517万円の財源であるが、7款商工費から2款総務費に持って来たのは、財務規則第17条に抵触しないか。

答 義援金は全て駐車場収入から充当するように予算措置した。財務規則第17条は歳出の流用規定であり、今回は財源を振り替えるもので財務規則には抵触しない。

委員長から市長に対し、今後二度と事前執行ととられかねないやり方

がないようにと、強く申し述べられた。

●反対討論

①市内活性化の為、義援金という現金ではなく、例えば図書券、文具券等の物資を市内から調達して支援を行うべきである。

②市内経済が落ち込んでおり、義援金よりも市内活性化対策を優先すべきである。

③今回の補正予算案の提案までの一連においては、議会の議決を無視した事前執行と受け止められる。

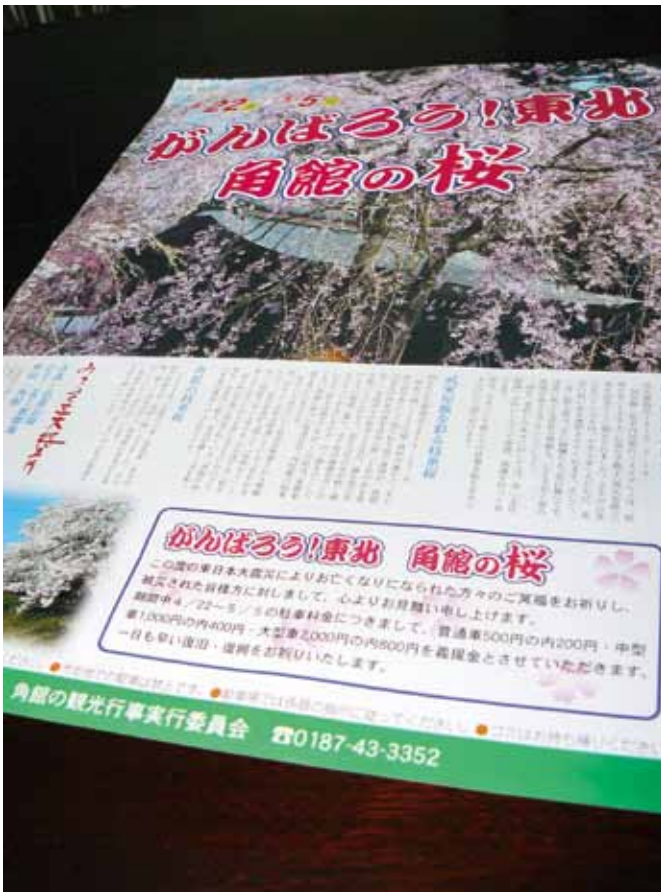
●賛成討論

①被災地の立場から現金で支援すべきである。
②被災地支援と同時に、市内活性化に向けた確実な事業展開と新たな経済対策を実施すべきである。

◎採決の結果

一般会計補正予算は賛成多数で可とし、他4件は全会一致で可とした。

(田口(寿) 記)



義援金のあり方に議論が集中 (観桜会チラシ)

教育民生 常任委員会

本会議より教育民生常任委員会に付託された案件は議案6件と請願1件の合計7件である。

■議案第71号 仙北市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について

問 国は社会保障と税の一体化の中で、いろいろ議論されているが、国保税に関しては国保運営安定化計画では、5年間で5億円を一般会計から基準外繰入して運営していく計画であるが、その後の展開、方針をどう予測しているのか。

答 仙北市を含め各市町村の国保財政は非常に厳しくなっている。そのため最近、具体性を持って語られているのが、国保事業の広域化が論じられ

ている。今の情報では都道府県単位で国保事業を行っていく動きである。また広域化の流れの中で所得割・資産割・均等割・平等割の4方式から資産割を無くす3方式へ移行する市町村が増えており、今後3方式への移行に向けて協議していきたい。

■議案第73号 仙北市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定について

問 病床数については将来に向けて計画的に減少されていると思うが、角館総合病院の病床数(改正後280床)と新築時の病床数(180床)との関係について伺う。

答 大曲仙北全体を考えた場合、患者数より病床数が多くなっているのので、減らすことに問題はない。病院を建てる時の一般病床180床、精神病床48床が適切か否かの議論は基本構想をつくる時点で様々議論し、仙北市の人口推計、患者の推計などの動向を勘案した

数値である。

■議案第75号 平成23年度仙北市一般会計補正予算

●3款民生費

問 地域支え合い体制づくり事業には、様々な事業主体や担当課が入っているがその関わりは何か。また各憩いの場づくり整備事業では玄関や施設内の段差解消工事を行う予定であるが今後継続して、その他の施設の工事も行うのか。

答 今回の地域支え合い体制づくり事業に関してはスタートする時点で各課およびNPO法人に呼びかけ募集した。目的どおり多世代の交流や生き甲斐の場としての活用に止まるだけでなく各課、団体にも入っていただいで、更に生き甲斐的なものを多角的な方向で取り組んで欲しいことから、様々な方々に入っていただいでいる。

また、段差解消工事については、中川、雲沢、白岩の各集落センターだけの計画になっている。

●地域支え合い体制づくり事業に関しては、事業の内容が多岐に渡ることから、事業を実施するにあたり十分に担当・常任委員会と協議をして目的を達成できるように行って欲しいと、委員から意見があった。

●4款衛生費

問 大腸がん検診推進事業の実績はどうなっているのか。

答 平成20年度が16・4%、平成21年度が19・9%、昨年については22・7%であり、毎年上がっている。今年は大仙市の中仙・太田地区まで範囲を広げて行う。

●10款教育費

問 公共スポーツ施設等活性化事業費については、園児や小学生を対象にサッカー教室を行う予定となっているが、サッカーに限定したのはなぜか。

答 角館町の玉川河川公園にあるサッカー場の利用促進を図る意味もあるが、サッカーは人気があり子供達の声に配慮して

の施策である。今後、他のスポーツとの整合性をとりながら行っていきたい。

■議案第79号 平成23年度仙北市病院事業会計補正予算

■請願第1号 家庭用LED照明購入費補助事業について

問 修学資金貸付金の補正については、大学6年生2名へ1年分の貸付であるが、1年の貸付の場合、仙北市で勤務していただく拘束期間は何年になるのか。

答 1年の貸付の場合は1年の義務となっている。この2名については秋田大学の医局に入ると

いうことで将来も秋田大学に残ることになる。そのうち1年間は仙北市の病院に勤めていただく条件である。

照明の種類や金額、どれくらいの財源が必要なのか等、引き続き審査が必要なことから継続審査と決定した。

◎採決の結果
全議案、全会一致で原案を可決した。

(佐藤 記)



玉川河川公園 (サッカー場)

産業建設 常任委員会

本会議より産業建設常任委員会に付託された案件は、条例1件、予算関係4件、その他1件の計6件である。



指定管理者制度の準備に入った旧下延小学校跡地

■仙北市農村公園及び広場条例の一部を改正する条例制定について

問 下延農村公園に設置されている遊具やプールの安全対策は十分か。

答 遊具やプールは廃止の状態であり、危険を伴うものは排除したい。

意見 指定管理に至るまでには、すべての施設の安全を確認した上で、契約すること。

■仙北市一般会計補正予算

緊急雇用対策事業費

問 環境教育プログラム作成事業費についてのメリット、またデザイン室の目指す方向性は。

答 自然環境、自然エネルギーのパーツ単体としての素材はあるものの、パーツとパーツを組合せた総合的なプログラムはない。

緊急雇用対策費を活用し、旅行会社へ地元の2名を雇用していただき、プログラム作成に携わることにより人材が養成される。

デザイン室の目指す方向は、このプログラムを新しいネタとして、これまで来ていただいている学校や企業に加え、新しい学校や企業の旅行や研修の誘致に努めていく。

震災被災地

農林業ニーズ調査費

問 この調査費は具体的に何をするのか。

答 緊急支援として宮古市、山田町、大槌町の3



高齢化が進行する中で対策が急がれる仙北市農業

市町に支援を行って来たが、今後本格的な復興に向けて仙北市として、農林業の面でどのような支援が出来るのかを調査するための予算である。

行政関係者と市内の農家、JA関係の8人分の旅費と公用車のガソリン代である。

意見 被災地支援も大事

ではあるが、仙北市の農業事情も最悪である。調査した中から市の農業に活かすことがあれば活用してほしい。

秋田発子供双方向交流プロジェクト支援事業

問 この事業の対象校はどこか。

答 平成20年度から22年

度までは西明寺小学校が行っていた。
新たに中川小学校が手を挙げたもので、中川小学校の子供達が、東京へ行って交流する事業である。

◎採決の結果

全議案、全会一致で可決された。継続審査請願第一号「雲然地区の水害予防措置について」採択と決定。

最後に産業建設常任委員会の審査の中で、委員から当局に対して、次の点について意見が出された。

一、いかにも議案が可決するかのような、議案軽視とも受け取られる事業の執行は厳に慎むこと。
今後の業務遂行にあたっては、この点を重く受け止め議決に至るまでの手順をしっかりと踏むこと。

(安藤 記)

議会全員協議会

所得税還付等の調査について

6月20日開催分
1. 職員への聴き取り調査
(6月17日現在)

- ①平成15年度(旧角館町)から17年度(仙北市)に在籍した税務課職員24名を対象に聴き取り調査の実施
- ②平成14年度(旧角館町)の税務課職員を対象に聴き取り調査の実施
- ③平成14年度(旧角館町)から17年度(仙北市)にかけて会計課長であった職員を対象に聴き取り調査の実施
- 2. 差押対象者及び金額の確認
- ①平成14年～17年、662件確認
- 3. 所得税還付金の充当先の確認
- ①平成14年～17年、662件確認
- 4. 債権譲渡通知書の確認
- ①納税者以外へ充当されているケースについて、債権譲渡通知書の所在の確認
- 5. 残余金還付状況の確認
- ①差押調査に記載されている滞納額を上回る還付金を

差押えた場合、残余金が納税者へ還付されているかを確認

- 6. 差押調査簿本及び配当計算書の送付状況の確認
- ①差押調査簿本の送付履歴を確認
- ②配当計算書の送付履歴を確認
- 7. 社会保険料控除欄の記載内容の精査
- ①国民健康保険税の納付状況を確認
- ②国民年金保険料の納付状況を確認
- ③介護保険料の納付状況を確認
- 8. 医療費控除欄の記載内容の精査
- ①医療機関の受診状況により妥当性を確認
- 9. 生命保険料及び損害保険料控除欄の記載内容の精査
- ①生命保険加入状況の前年度及び翌年度比較等により妥当性を確認
- ②損害保険加入状況の前年度及び翌年度比較等により妥当性を確認
- 7～9の調査により不正な処理が行われていたと疑われる事案が延べ100件

程度見受けられ、関係機関から提供を受けた情報に基づき確認作業中

10. 国税局の調査経過

- ①確定申告書の閲覧・複写を依頼
- * 国税局等の調査結果として26名30件分の修正申告あり

その他 調定乖離について

税務システムで管理している未納が決算書よりも多い状況である。

県税の報告データが昭和60年から地域振興局に残されており、この内容に基づき県に対する報告から逆算した表を再現し、実際の決算書と突合している。

問 今までの調査過程において、一番のネックとなっているものは何か。

調査局長 一つには調査対象になる方、聴き取りしなければならぬ方が、次々と増えてくること。もう一つは帳簿そのものが全部揃っていないわけでなく、保管場所が分からないケースもある。地道な調査を進めている。

れたり、個人的に流用された事実はないのか。

調査局長 流用は確認されていない。

問 合併以後にも、違法な所得税の還付が行われたという報告もあるが旧町村のどこか、行った職員は特定できているか。

調査局長 現在調査中である。

問 およその見当として、いつごろ結果が出るのか。

調査局長 7月末には調査委員会もあるので、その席上で進捗状況と調査精度を含め、一定の形を示したい。

(6月28日開催分)

市長 平成22年国保調整交付金の返還問題のとき調査委員会で発見できなかった国保に関する11年度分からのデータを精査することができた。

国保税の調定減に関係すると想定されるデータの中にはあるという状況である。

所得税還付等の問題を解決する作業を最優先で進めているが、並行してこの事案についても調査をしていく。

調査局長 現在差押調査をベースに調査しているが、申告内容を確認しようとする、やはり、国保の水増しがある疑いが強いものが見つかっている。

税務の履歴の上では13年度までさかのぼることができるので調査したところ、やはり社会保険料の二重控除が発見されている。

そのような個別の事例が出てきて全体像を掴むことができない。調査項目を増やしていく必要性があり、結果として進まない状況にある。

問 二重控除の発生要因と継続性については、どう考えるか。

調査局長 単純な水増しか、誤りなのかは分からない。ただし、同じ世帯の中で一人しか控除できないものを、同じ世帯の別の方の控除としている例がある。

人的控除の付け替えや社会保険料の二重控除が、13年度から行われていたとすれば、単純に所得税還付の問題も14年～17年度間の調査で済まなくなる構図もあり、慎重に調査を進めている。

問 二重控除ということだがもう少し詳しく説明したい。

調査局長 社会保険料の控除を源泉徴収票で控除されている人とは別の人も控除を付け、さらに、同じ控除を、世帯の同じ人につけ

るといふ例が見つかっている。

副市長 調査委員会の長として、国保税調定額の不正な減額の調査について不徹底な調査であったことをお詫びいたすとともに、この調査の現場の長としての責は負わなければならないと考えている。

今後の調査の徹底をお誓い申し上げ、もう少し時間をいただきたい。

議長からは、客観的な事実の解明と再発防止が議会の務めである。公の立場では許されないことを行政上当局はどのように捕えるのかであるという提起がなされ閉会した。

(荒木田 記)



人事案件

○人権擁護委員に清水氏
人権擁護委員に清水氏(60)を任命する案に全会一致で同意した。

清水力氏談

人権に関する問題が多くなっている現在の社会で、子ども、高齢者等悩みを抱えている人達が安心して暮らせるよう、人権擁護活動を通して、少しでも役に立ちたいと思う。

全国市議会 議長会表彰



八柳 良太郎議員
(市議会10年以上)

傍聴席



成田 謙(神代)

地方分権、地域主権という言葉がよく聞かれます。それを実践するための議会改革ということで昨年5月、議会基本条例が施行されているということですが、自治体の主要な決定は議会が行っているものであり、地域経営の最終責任は議会にあるという、強い思いからでしょう。その思いが、今日どう実践され、生かされているのか見えます。

全国的に市民グループ等が、自分の自治体の財政分析をする運動が広がっています。地方分権、地域主権とい

ます。議会も予算編成し、市民と語り合ってはどうか。二元代表制の視点からも、議会の活性化からも、良いことと思うのですが。

今日、政治に対して、冷笑的な見方が多くなっているように感じます。この状況を变える道は、より近い地方議会と市民との、信頼関係作りにお互い汗を流すことでは。

控室

定例会開会中の控室、国の震災対応や市の被災地支援、市内の経済状況や各地区の状況、議案に関する事など、様々な話題で意見交換をす

る。その時間までは、コーヒーやお茶を手にし、世間話しをしながらひと時を過ごす。そして、開会の5分前にコーヒーの香ばしい香りを残して、

質問での議論を聞いて思った事などを出し合う場となっている。会議再開のブザーが鳴るまで熱のこもった意見交換が行われる。

べる人が増えた。この部屋にはテレビがあり、昼食時はニュースが映し出されている。世の中の出来事もおかずにしながら、お昼のひと時を過ごす風景がある。

議員控室には色々な風景がある。控室にあるテーブルに、花瓶に添えられた花が置いてある。熱い中にも癒される風景である。

(田口(寿) 記)



議員同士、情報を共有する事の出来る場の一つである。

それぞれの議席へと向かって行く。

1時間の昼休みがある。弁当の人、食堂に行く人、それぞれが思い通りに時間を過ごす。以前に比べて控室で弁当を食

く休憩中の控室、会議中、十分程度の休憩が入る。議案について各議員が考える事、一般

朝の控室、会議は10時から開かれる。



編集後記

新メンバーによる議会だよりの発行回数は5回を数えた。

いかに議会に関心をもってもらえるか毎回、編集上の課題に直面している。

今回から議会改革の一環として、各議員の賛否を公開することにした。

開かれた議会として、各議員の考え方がわかれば、有権者が投票の際の判断材料になるだろう。

賛否の公開に慎重な北秋田市議会が、7月22日に議会改革推進協議会(佐藤直樹座長)を訪れ、意見を交換した。(写真)

(安藤 記)